

宮城県感染症発生動向調査情報(第24週)

宮城県【平成26年06月19日】発行
宮城県保健環境センター
TEL (022)257-7228

— 2014.6.9 ~ 6.15 ・ 第24週 —

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾 病	保 健 所								宮 城 県 (含む仙台市)					
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼	患者数	累計	第21週	第22週	第23週	第24週	
水痘	2 0.40	5 0.50	6 1.20		3 1.00	2 0.40	2 1.00	25 0.96	45 0.78	1,093	○ →	○ →	○ →	○
流行性耳下腺炎		1 0.10			2 1.00	3 1.00		7 0.27	13 0.22	293	→	→	→	
百日咳											→	→	→	
感染性胃腸炎	30 6.00	34 3.40	3 0.60	12 6.00	23 7.67	26 5.20	9 4.50	181 6.96	318 5.48	12,042	◎ →	◎ →	◎ →	◎
手足口病	4 0.80	1 0.10						2 0.08	7 0.12	40	→	→	→	
伝染性紅斑	10 2.00	7 0.70	16 3.20	5 2.50	8 2.67	14 2.80	1 0.50	33 1.27	94 1.62	1,017	○ →	○ →	◎ →	◎
突発性発しん	3 0.60	4 0.40	4 0.80	1 0.50	3 1.00	1 0.20	2 1.00	16 0.62	34 0.59	849	○ →	○ →	○ →	レ
ヘルパンギーナ		1 0.10						1 0.02	15		→	→	→	
インフルエンザ		1 0.07		5 1.67		1 0.13		7 0.08	28,893		○ →	レ →	レ →	
咽頭結膜熱	2 0.40	4 0.40						9 0.35	15 0.26	276	→	→	○ →	レ
流行性角結膜炎		2 0.67						1 0.17	3 0.25	64	→	→	→	
急性出血性結膜炎											→	→	→	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16 3.20	25 2.50	5 1.00	5 2.50	9 3.00	26 5.20	4 2.00	72 2.77	162 2.79	3,289	◎ →	◎ →	◎ →	◎
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)											→	→	→	
無菌性髄膜炎											→	→	→	
マイコプラズマ肺炎			2 2.00	1 1.00		1 1.00	5 5.00	1 0.20	10 0.83	211	→	→	→	
クラミア肺炎(オウム病は除く)											→	→	→	
RSウイルス感染症								5 0.19	5 0.09	315	→	→	→	
拡 張 疾 病	マイコプラズマ肺炎(小児科)		7	2			1	1	◎：流行の変化について、今後の情報に十分注意 ○：発生または流行について、今後の情報に留意 レ：発生が少なくなっている傾向					
	川崎病	1						1						
	不明発疹症							1						
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)※							1	51					

※ 法改正により、平成25年10月14日より、ロタウイルスが原因の感染性胃腸炎について、基幹定点より報告を求めることになりました。

今週の全数報告疾病

1類感染症: 報告なし	*男児、女児は6歳未満
2類感染症: 結核	
石巻管内	女性1名
塩釜管内	男性1名
大崎管内	男性2名
仙南管内	男性3名
仙台管内	男性1名、女性1名
3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症(O157)	
登米管内	女児*1名
仙台管内	男性1名
腸管出血性大腸菌感染症(O26)	
仙南管内	女児*2名
仙台管内	男児*2名
4類感染症: レジオネラ症	
大崎管内	男性1名
A型肝炎	
仙台管内	男性1名(第6週)
5類感染症: 侵襲性肺炎球菌感染症	
塩釜管内	男性1名
仙台管内	男性1名
梅毒	
仙台管内	女性1名

今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 1例

今週の感染症のコメント

— 宮城県感染症対策委員会情報解析部会 —

【伝染性紅斑】
大崎、栗原、石巻、登米管内で警報継続中。
仙南管内で警報値を超えた。

【病原体検出情報】

～仙台医療センターウイルスセンター～

	第22週採取分 (5.26～6.1)	第23週採取分 (6.2～6.8)	第24週採取分 (6.9～6.15)
インフルエンザウイルス(解析中)	0件	1件	0件
バラインフルエンザウイルス2型	1件	0件	0件
バラインフルエンザウイルス3型	1件	1件	2件
ヒトメタニューモウイルス	5件	4件	2件
RSウイルス	2件	3件	1件
アデノウイルス	1件	1件	2件

【腸管出血性大腸菌感染症】

ペロ毒素を産生する大腸菌によって引き起こされる感染症で下痢を主症状とする。O157やO26、O121、O103などタイプの異なる大腸菌がある。例年夏季に発生し8月がもっとも多い傾向にあるが、今週、特に幼児を中心に患者報告があることから今後の発生動向には十分注意が必要である。
予防治法などについては、宮城県保健福祉部疾病・感染症対策室HPへ
<http://www.pref.miyagi.jp/situkan/kansensho/daichoukin.htm>

インフルエンザ関連情報 (患者報告年齢別割合)

報告週	年齢群 (%)										総数 (人)	
	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳		80歳～
2014年 第21週	2.1	29.8	23.4	4.3	6.4	10.6	4.3	10.6	6.4	0.0	2.1	47
第22週	11.4	54.3	22.9	2.9	0.0	2.9	0.0	0.0	2.9	0.0	2.9	35
第23週	18.2	18.2	27.3	18.2	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	11
第24週	14.3	42.9	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7

インフルエンザ定点

インフルエンザ定点
インフルエンザ定点とは、小児科定点と内科定点を合わせたもので、県全体で93定点(県:51、仙台市:42)となっています。

定点把握の対象となる5類感染症(全国 第22週) (国立感染症研究所感染症疫学センターホームページより抜粋)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は第17週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は沖縄県(6.97)、山形県(1.69)、岩手県(1.66)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は25例と前週と比較して減少し、13都県から報告があった。RSウイルス感染症: 報告数は273例と増加した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約70%を占めている。咽頭結膜熱: 定点当たり報告数は3週連続で増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は福井県(2.23)、石川県(1.90)、富山県(1.72)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 定点当たり報告数は3週連続で増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は山形県(5.13)、鳥取県(5.05)、新潟県(5.00)である。感染性胃腸炎: 定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は福井県(15.91)、愛媛県(15.35)、長野県(12.93)である。水痘: 定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は新潟県(2.84)、大分県(2.53)、富山県(2.41)である。マイコプラズマ肺炎: 定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は青森県(1.67)、富山県(1.40)、宮城県(1.00)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る): 定点当たり報告数は2週連続で減少した。41都道府県から224例報告があり、年齢別では0歳(35例)、1～4歳(154例)、5～9歳(31例)、10代(1例)、20代(1例)、30代(1例)、60代(1例)であった。

* 全国の指定された医療機関(小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)の集計結果です。()内数字: 定点当たり報告数